

LM・ブラジル国債ファンド (年2回決算型)

運用報告書 (全体版)

第15期 決算日 2016年3月14日

◇当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	当ファンドは、主に「LM・ブラジル国債マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主にブラジル・レアル建てのブラジル国債に投資を行うことにより、信託財産の中長期的成長を目指します。	
主要運用対象	当ファンド	「LM・ブラジル国債マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	LM・ブラジル国債マザーファンド	ブラジル・レアル建てのブラジル国債を主要投資対象とします。
組入制限	外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。	
分配方針	年2回の決算日（原則として毎年3月13日及び9月13日。休業日の場合は翌営業日）に、収益分配方針に基づいて分配を行います。	

当報告書に関するお問合わせ先：

レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

お問合わせ窓口

電話番号：03-5219-5947

－ 受益者のみなさまへ －

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「LM・ブラジル国債ファンド（年2回決算型）」は、2016年3月14日に第15期の決算を行いましたので、期中の運用状況と収益分配金をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

レッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

〒100-6536 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

<http://www.leggmason.co.jp>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	騰落率		債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税金 分配	み 騰 落 率			
	円	円	%	%	%	百万円
11期(2014年3月13日)	13,103	10	1.5	97.6	—	2,429
12期(2014年9月16日)	14,888	10	13.7	98.0	—	2,112
13期(2015年3月13日)	12,359	10	△16.9	97.6	—	1,786
14期(2015年9月14日)	10,129	10	△18.0	97.2	—	2,296
15期(2016年3月14日)	11,060	10	9.3	98.1	—	2,306

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

(注4) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		債券組入比率	債券先物比率	債券率
		騰落率	騰落率			
(期首) 2015年9月14日	円 10,129	% —	% 97.2	% 97.2	% —	% —
9月末	9,480	△6.4	97.1	97.1	—	—
10月末	10,259	1.3	97.3	97.3	—	—
11月末	10,524	3.9	97.1	97.1	—	—
12月末	10,363	2.3	96.2	96.2	—	—
2016年1月末	10,063	△0.7	100.0	100.0	—	—
2月末	9,744	△3.8	99.4	99.4	—	—
(期末) 2016年3月14日	11,070	9.3	98.1	98.1	—	—

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

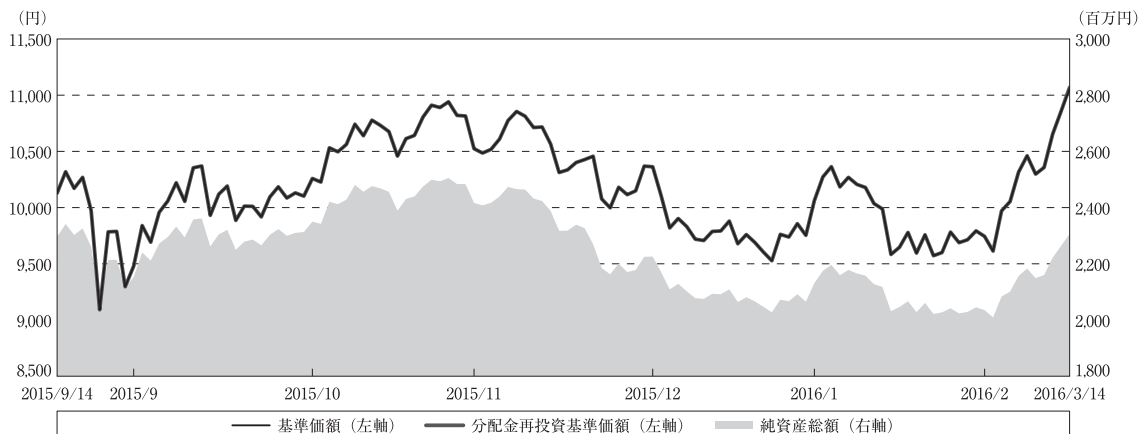
(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

○運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年9月15日～2016年3月14日)



期 首：10,129円

期 末：11,060円 (既払分配金 (税込み)：10円)

騰落率： 9.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2015年9月14日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

期末 (2016年3月14日) のLM・ブラジル国債ファンド (年2回決算型) (以下、当ファンド) の基準価額は11,060円 (分配金控除後) となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス (騰落率) はプラス9.3% (分配金再投資ベース)、基準価額は941円 (分配金込み) 上昇しました。

ブラジルの金利水準が相対的に高いことから、公社債利金を手堅く確保しました。公社債損益についても、債券利回りが低下したことからプラスに寄与しました。また、ブラジルリアル・円相場がリアル高・円安となったことから、為替損益もプラスとなりました。

当期のブラジル債券市場では、利回りが低下（価格は上昇）しました。

期の前半は、ブラジルの政局が混迷の度合いを深めたことや、財政健全化が進まないことなどを背景に、利回りは急上昇（価格は下落）して始まりました。その後は、格付け会社フィッチがブラジル国債を格下げしたものの、投資適格級を維持したことなどが好感され、利回りは低下しレンジ内での動きとなりました。

期の半ばは、ブラジルのインフレ上昇率が加速したことや、フィッチによるブラジル国債の投資不適格級への格下げなどを受け、利回りは上昇しました。また、財政改革を牽引してきたレヴィ財務相が辞任し、財政健全化が遅れるとの懸念が生じたことも、利回りの上昇要因となりました。

期の後半は、ブラジル中央銀行（BCB）が2016年1月19～20日の金融政策委員会において、市場の追加利上げ予想に反し政策金利の据え置きを決定したことから、利回りは低下に転じました。さらに、原油価格が持ち直し投資家のリスク回避の動きが弱まったことや、ブラジルの汚職捜査を巡り政権交代への期待が高まったことなどから、利回りは急速に低下しました。

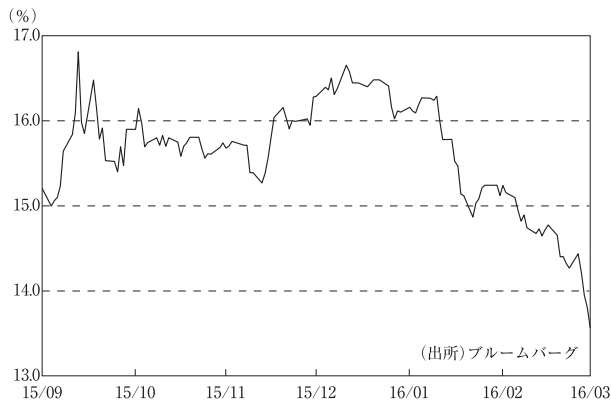
当期のブラジルリアル・円相場は、リアル高・円安となりました。

期の前半は、BCB総裁がリアルを下支える姿勢を示したことなどから、リアル安に歯止めがかかりました。その後は、欧州中央銀行（ECB）による追加緩和観測の強まりや中国人民銀行による追加緩和策の決定を受けて、投資家のリスク回避姿勢が和らいだことなどから、リアルを買い戻す動きが強まりました。

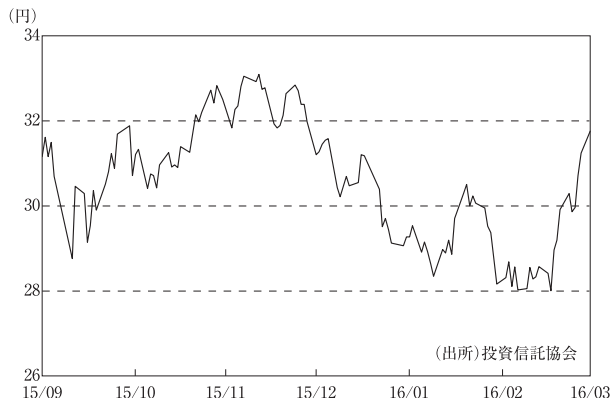
期の半ばは、政府系石油会社ペトロbrasの汚職事件に関連し、ブラジル政界や金融界への捜査拡大が嫌気されたことなどから、リアル売り・円買いが優勢となりました。その後も、原油価格の下落やブラジル国債の格下げなどを受けて、リアル売り・円買いが強まりました。

期の後半は、一時リアル高・円安となったものの、BCBが市場予想に反し政策金利の据え置きを決定すると、再びリアル売り・円買いが優勢となりました。しかし、その後、日銀が追加緩和を発表したことや原油価格の持ち直しなどを受け、リアルは対円で底堅く推移しました。期末にかけては、政権交代への期待感からリアル買い・円売りが強まりました。

ブラジル国債（2年物）利回りの推移



ブラジルリアル／円レートの推移



当ファンドは、主に「LM・ブラジル国債マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主にブラジルリアル建てのブラジル国債に投資を行うことにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。当期においては、債券の流動性や残存年数に配慮しながら、引き続きポートフォリオを構築しました。

分配金につきましては、基準価額動向や保有債券の利子収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第15期
	2015年9月15日～ 2016年3月14日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.090%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,177

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

ブラジル経済については、財政健全化が急がれることや政局の混乱が長期化していることなどから、当面は低迷が続くものと予想されます。当面は、資源価格や世界経済の動向にも注意が必要です。しかし、国内の政局が落ち着きを取り戻し財政健全化への道筋が見えてくれば、ブラジル経済に対する信認回復につながるものと期待されます。

金融政策については、BCBは2016年1月の金融政策委員会において、市場の利上げ予想に反し政策金利の据え置きを決定し、3月の委員会でも据え置きとしました。インフレ率は依然高いものの、BCBは当面、国内外の経済環境を見極めるため様子見姿勢を継続するものと見込まれます。今後は、電気料金の値下げなどにより、インフレ率も徐々に鈍化してくるものと予想されます。

為替市場については、足元では不透明な政治状況などから不安定な動きが続く可能性があるものの、日本では日銀がマイナス金利を導入するなど積極的な緩和スタンスを示していることから、レアルは対円で底堅く推移するものと考えられます。

債券市場については、政局の混乱などを背景に財政改革の進展が遅れていることから、上値の重い展開が続く可能性があります。ただし、今後はインフレ率の鈍化が見込まれることや、ブラジルの金利水準が相対的に高いことなどが、債券市場を下支えするものと予想されます。

当ファンドにおきましては、信託財産の中長期的成長を目指し、運用に注力していく所存です。

○1万口当たりの費用明細

(2015年9月15日～2016年3月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 84	% 0.832	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(41)	(0.403)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(41)	(0.403)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	10	0.098	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(8)	(0.077)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 等 費 用 ）	(1)	(0.015)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出 に係る費用
合 計	94	0.930	
期中の平均基準価額は、10,072円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年9月15日～2016年3月14日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
LM・ブラジル国債マザーファンド	千口 202,323	千円 235,668	千口 383,006	千円 447,516

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2015年9月15日～2016年3月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している投資信託委託会社の自己取引状況

(2015年9月15日～2016年3月14日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2015年9月15日～2016年3月14日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2016年3月14日現在)

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
LM・ブラジル国債マザーファンド	2,016,891	1,836,209	2,327,762

(注) 単位未満は切捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2016年3月14日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
	千円	%
LM・ブラジル国債マザーファンド	2,327,762	99.9
コール・ローン等、その他	2,186	0.1
投資信託財産総額	2,329,948	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) LM・ブラジル国債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(59,647,614千円)の投資信託財産総額(59,999,674千円)に対する比率は99.4%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、3月14日における邦貨換算レートは1米ドル=113.89円、1ブラジルレアル=31.76円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年3月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,329,948,632
LM・ブラジル国債マザーファンド(評価額)	2,327,762,579
未収入金	2,186,053
(B) 負債	23,425,753
未払収益分配金	2,085,459
未払解約金	2,186,053
未払信託報酬	18,674,869
その他未払費用	479,372
(C) 純資産総額(A－B)	2,306,522,879
元本	2,085,459,160
次期繰越損益金	221,063,719
(D) 受益権総口数	2,085,459,160口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,060円

<注記事項>

元本の状況

期首元本額

期中追加設定元本額

期中一部解約元本額

2,266,882,627円

230,635,267円

412,058,734円

○損益の状況

(2015年9月15日～2016年3月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	213,705,414
売買益	235,114,991
売買損	△ 21,409,577
(B) 信託報酬等	△ 19,154,241
(C) 当期損益金(A+B)	194,551,173
(D) 前期繰越損益金	△ 509,392,342
(E) 追加信託差損益金	537,990,347
(配当等相当額)	(1,124,246,667)
(売買損益相当額)	(△ 586,256,320)
(F) 計(C+D+E)	223,149,178
(G) 収益分配金	△ 2,085,459
次期繰越損益金(F+G)	221,063,719
追加信託差損益金	537,990,347
(配当等相当額)	(1,125,360,049)
(売買損益相当額)	(△ 587,369,702)
分配準備積立金	579,969,702
繰越損益金	△ 896,896,330

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するため要する費用として、委託者報酬のうち販売会社へ支払う手数料を除いた額の100分の50相当額を支払っております。

<分配金の計算過程>

決 算 期	当 期
(A) 配 当 等 収 益(費用控除後)	106,033,278円
(B) 有 価 証 券 売 買 等 損 益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
(C) 収 益 調 整 金	1,125,360,049
(D) 分 配 準 備 積 立 金	476,021,883
分 配 対 象 収 益 額(A+B+C+D)	1,707,415,210
(1万口当たり収益分配対象額)	(8,187)
収 益 分 配 金	2,085,459
(1万口当たり収益分配金)	(10)

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	10円
----------------	-----

◇分配金をお支払いする場合

分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◇分配金を再投資する場合

お手持り分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰入れて再投資いたします。

◇分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により普通分配金と元本払戻金（特別分配金）に分かれます。分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額普通分配金となります。

分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が元本払戻金（特別分配金）、残りの部分が普通分配金となります。

◇元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

LM・ブラジル国債マザーファンド

運用状況のご報告

第8期 決算日 2016年3月14日

(計算期間：2015年3月14日～2016年3月14日)

— 受益者のみなさまへ —

法令・諸規則に基づき、「LM・ブラジル国債マザーファンド」の第8期の運用状況をご報告申し上げます。

◇当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商 品 分 類	親投資信託
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主としてブラジル・レアル建てのブラジル国債を中心に投資を行います。 2. 原則として外貨建資産の為替ヘッジを行いません。 3. 債券の流動性や残存年数に配慮しながらポートフォリオを構築します。
主 要 運 用 対 象	ブラジル・レアル建てのブラジル国債を主要投資対象とします。
組 入 制 限	外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		債組入比率	債券率	債先物比率	純資産額
	円	騰落中率				
4期(2012年3月13日)	13,442	6.7	97.1	%	—	百万円 363,628
5期(2013年3月13日)	16,075	19.6	97.8	%	—	283,699
6期(2014年3月13日)	14,433	△10.2	96.7	%	—	162,125
7期(2015年3月13日)	13,883	△3.8	96.6	%	—	88,496
8期(2016年3月14日)	12,677	△8.7	97.2	%	—	59,834

(注1) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注2) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債組入比率	債券率	債先物比率	債券率
	円	騰落率				
(期首) 2015年3月13日	13,883	—	96.6	%	—	%
3月末	13,635	△1.8	97.0	%	—	%
4月末	15,062	8.5	96.2	%	—	%
5月末	14,933	7.6	95.7	%	—	%
6月末	14,962	7.8	94.9	%	—	%
7月末	14,119	1.7	98.9	%	—	%
8月末	12,817	△7.7	97.9	%	—	%
9月末	10,780	△22.4	97.0	%	—	%
10月末	11,682	△15.9	97.1	%	—	%
11月末	12,000	△13.6	96.8	%	—	%
12月末	11,834	△14.8	95.7	%	—	%
2016年1月末	11,509	△17.1	99.3	%	—	%
2月末	11,163	△19.6	98.6	%	—	%
(期末) 2016年3月14日	12,677	△8.7	97.2	%	—	%

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。



○基準価額の主な変動要因

当期末（2016年3月14日）のLM・ブラジル国債マザーファンド（以下、当ファンド）の基準価額は12,677円となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス8.7%、基準価額は1,206円下落しました。ブラジルの金利水準が相対的に高いことから、公社債利金を手堅く確保しました。しかし、ブラジルレアル・円相場がレアル安・円高となったことから、為替損益はマイナスとなりました。

当期のブラジル債券市場では、利回りは前期末とほぼ同じ水準（価格は横ばい）となりました。

期の前半は、政府の財政改革への取り組みに期待が高まったことなどから、利回りは低下基調で始まりました。しかし、インフレを抑制するためにブラジル中央銀行（BCB）が利上げ姿勢を継続したことから、次第に利回りに上昇圧力がかかる展開となりました。その後、米国における早期利上げ観測が後退した場面では、利回りはやや低下しました。

期の半ばは、格付け会社スタンダードアンドプアーズ（S&P）社がブラジル国債の格付けを投資不適格級へ引き下げたことや、世界的に株安が進み投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、利回りは大きく上昇（価格は下落）しました。その後も、ブラジルの汚職捜査に伴う政局の混乱や財政改革の停滞などを背景に、利回りは上昇傾向が続きましました。

期の後半は、インフレ率の上昇や、財務相の交代に伴い財政改革の遅延が懸念されたことなどから、利回りは上昇しました。しかし、BCBが2016年1月の金融政策委員会で市場の追加利上げ予想に反し政策金利の据え置きを決定したことなどから、利回りは低下に転じました。さらに、原油価格が持ち直し投資家のリスク回避の動きが弱まったことや、ブラジルの汚職捜査を巡り政権交代への期待が高まったことなどから、利回りは低下しました。

当期の為替市場では、ブラジルリアル安・円高となりました。

期の前半は、財政改革進展への期待が高まったことや、米国の利上げ観測が後退したことなどから、リアル買い・円売りが優勢で始まりました。その後、リアルは安定的に推移しましたが、ギリシャへの金融支援問題の混乱や中国株式市場の下落を受け、投資家のリスク回避姿勢が強まると、リアル売り・円買いが優勢となりました。

期の半ばは、ブラジル国債の格下げや政局の混乱に加え、世界的な株安を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、リアル売り・円買いが強まりました。しかし、その後、BCBがリアルを下支えする姿勢を示したことや、中国の追加緩和などを受けてリスク回避の動きが和らいだことから、リアルが持ち直す展開となりました。

ブラジル国債（2年物）利回りの推移



ブラジルリアル／円レートの推移



期の後半は、原油価格の下落や政局の混乱などから、リアル売り・円買いが優勢となりました。また、BCBが市場予想に反し政策金利の据え置きを決定したことも、リアル売り要因となりました。しかし、その後、日銀が追加緩和を発表したことや原油価格の持ち直しなどを受け、リアルは対円で底堅く推移しました。期末にかけては、政権交代への期待感からリアル買い・円売りが強まりました。

当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、主にブラジルリアル建てのブラジル国債に投資を行うことにより、信託財産の中長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。当期においては、債券の流動性や残存年数に配慮しながら、引き続きポートフォリオを構築しました。

○今後の運用方針

ブラジル経済については、財政健全化が急がれることや政局の混乱が長期化していることなどから、当面は低迷が続くものと予想されます。当面は、資源価格や世界経済の動向にも注意が必要です。しかし、国内の政局が落ち着きを取り戻し財政健全化への道筋が見えてくれば、ブラジル経済に対する信認回復につながるものと期待されます。

金融政策については、BCBは2016年1月の金融政策委員会において、市場の利上げ予想に反し政策金利の据え置きを決定し、3月の委員会でも据え置きとしました。インフレ率は依然高いものの、BCBは当面、国内外の経済環境を見極めるため様子見姿勢を継続するものと見込まれます。今後は、電気料金の値下げなどにより、インフレ率も徐々に鈍化してくるものと予想されます。

為替市場については、足元では不透明な政治状況などから不安定な動きが続く可能性があるものの、日本では日銀がマイナス金利を導入するなど積極的な緩和スタンスを示していることから、リアルは対円で底堅く推移するものと考えられます。

債券市場については、政局の混乱などを背景に財政改革の進展が遅れていることから、上値の重い展開が続く可能性があります。ただし、今後はインフレ率の鈍化が見込まれることや、ブラジルの金利水準が相対的に高いことなどが、債券市場を下支えするものと予想されます。

当ファンドにおきましては、信託財産の中長期的成長を目指し、運用に注力していく所存です。

○1万口当たりの費用明細

(2015年3月14日～2016年3月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 25	% 0.190	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(25)	(0.190)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	25	0.190	
期中の平均基準価額は、12,874円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年3月14日～2016年3月14日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	ブラジル	国債証券	千ブラジルリアル 1,944,113	千ブラジルリアル 2,336,747 (24,800)

(注1) 金額は受渡し代金。(経過利息分は含まれておりません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2015年3月14日～2016年3月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2016年3月14日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ブラジル	千ブラジルレアル 1,920,300	千ブラジルレアル 1,831,013	千円 58,152,980	% 97.2	% —	% 0.3	% 7.5	% 89.4
合 計	1,920,300	1,831,013	58,152,980	97.2	—	0.3	7.5	89.4

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切捨て。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末					
	利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
ブラジル	%	千ブラジルレアル	千ブラジルレアル	千円		
国債証券						
BRAZIL-LTN(LETRA TESO NA)	—	159,300	158,280	5,026,988	2016/4/1	
BRAZIL-LTN(LETRA TESO NA)	—	197,500	189,758	6,026,735	2016/7/1	
BRAZIL-LTN(LETRA TESO NA)	—	147,000	136,311	4,329,238	2016/10/1	
BRAZIL-NTN-F(NOTA TESO N)	10.0	272,190	264,985	8,415,941	2017/1/1	
BRAZIL-NTN-F(NOTA TESO N)	10.0	984,210	934,896	29,692,320	2018/1/1	
BRAZIL-NTN-F(NOTA TESO N)	10.0	151,150	139,281	4,423,580	2019/1/1	
BRAZIL-NTN-F(NOTA TESO N)	10.0	2,150	1,870	59,395	2021/1/1	
BRAZIL-NTN-F(NOTA TESO N)	10.0	6,800	5,629	178,780	2023/1/1	
合 計				58,152,980		

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2016年3月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 58,152,980	% 96.9
コール・ローン等、その他	1,846,694	3.1
投資信託財産総額	59,999,674	100.0

(注1) 金額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(59,647,614千円)の投資信託財産総額(59,999,674千円)に対する比率は99.4%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、3月14日における邦貨換算レートは1米ドル=113.89円、1ブラジルレアル=31.76円です。

○特定資産の価格等の調査

(2015年3月14日～2016年3月14日)

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年3月14日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	60,704,484,431	
コール・ローン等	367,984,799	
公社債(評価額)	58,152,980,438	
未収入金	1,335,750,454	
未収利息	512,294,663	
前払費用	335,474,077	
(B) 負債	870,128,735	
未払金	706,045,000	
未払解約金	164,083,735	
(C) 純資産総額(A-B)	59,834,355,696	
元本	47,200,796,893	
次期繰越損益金	12,633,558,803	
(D) 受益権総口数	47,200,796,893口	
1万口当たり基準価額(C/D)	12,677円	

<注記事項>

- (注1) 元本の状況
- | | |
|-----------|-----------------|
| 期首元本額 | 63,742,270,352円 |
| 期中追加設定元本額 | 8,056,218,619円 |
| 期中一部解約元本額 | 24,597,692,078円 |
- (注2) 期末における元本の内訳
- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| LM・ブラジル国債ファンド(毎月分配型) | 43,517,750,421円 |
| LM・ブラジル国債ファンド(年2回決算型) | 1,836,209,339円 |
| LM・ブラジル国債ファンド(適格機関投資家専用) | 803,423円 |
| LM・ブラジル・ボンド・ファンド(適格機関投資家専用) | 1,846,033,710円 |

○損益の状況 (2015年3月14日～2016年3月14日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	7,286,187,740	
受取利息	7,286,187,740	
(B) 有価証券売買損益	△14,650,722,329	
売買益	1,634,339,756	
売買損	△16,285,062,085	
(C) 保管費用等	△ 136,377,996	
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 7,500,912,585	
(E) 前期繰越損益金	24,753,916,851	
(F) 追加信託差損益金	2,958,160,706	
(G) 解約差損益金	△ 7,577,606,169	
(H) 計(D+E+F+G)	12,633,558,803	
次期繰越損益金(H)	12,633,558,803	

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<主な約款変更に関するお知らせ>

投資信託に関する法令・一般社団法人投資信託協会規則等の変更に伴い、信用リスク集中回避のための投資制限の規定を新設し、信託約款の一部に所要の変更を行いました。

(変更日：2015年6月11日)